

昨年、この広報で「楠瀬亮くん日本ジュニア管打楽器コンクールで『銅賞』」の記事が伝えられました。今年の亮くんは、なんと全国で一番の「金賞」を受賞！新聞でも報じられ、まさに香南市の「希望の星」というにふさわしい彼の素顔にせまってみました。

担当／広報編集委員 田中 たい子

おだやかな笑顔

野市町西野の閑静な住宅街。庭に花の咲きほころぶお宅の玄関に立ち、私たちを迎えてくれた楠瀬亮くん。おだやかな笑顔が、まだ少しあどけない。

中学校を卒業したばかりで、数日後には、高校に通い始めるというタイミングで取材をさせていただいたが、お話している、その落ち着きぶりは、大人と話しているかと錯覚してしまう。

先輩の音に感動

昨年の広報でも紹介されたが、亮くんがサクスを始めたのは友だちに誘われたのがきっかけだった。そのとき、聴かされた先輩の吹くサクスの音色が、亮くんを「やろう」と決心させたという。その時からサクスの魅力に引き込まれ、一度聴いたあの「音」に少しでも近い音を出そうと、毎日毎日練習に励んだ。

将来の夢は

将来の夢？当然、プロのサクソ奏者でしょう？と聞いてみた。

「はい。一番はプロになりたいと思います。まずは高校に行つてから、またがんばって『金賞』を取りたいです」

ああ、やっぱり大人だ。あまりにもしっかりしていて、「こちらが恥ずかしくな

る。「一番？」という言葉がひっかかった。実は、彼にはまだ別の夢があった。

「もうひとつは化学者。有機化学に興味があります。電気の流れるプラスチックを開発して、動くおもちゃを作りたい」この時点で、この子はただ者ではないかも…と思ってしまう。

「そして三番目の夢は、ピザ屋さん」ここで、少しほっとした。なぜかと聞くと、友だちと食べに行った。ピザがとてもおいしくて、その時友だちとなんとなく約束したんだとか。

ぼくは「人」が好き

この三つの夢、それぞれ全く違うようではあるけれど、実は、共通点があった。一つ目は「音楽で人を笑顔にしたい」二つ目は「自分の作るプラスチックで、楽しいおもちゃを作り、子どもたちを笑顔にしたい」三つ目は、「おいしいピザを食べてもらって、みんなに笑顔になつてもらいたい」ここまでくると、どうすれば、こんな子どもにも育つのか、それがますます気になる。

夢多き15歳。これから、どんな夢を表現していくのだろうか。

編集後記

▼たぶん、以前からなぜか少しだけ編集ソフトが使えたからでしょうか…？「来年度は広報の係やね(笑)」とか言われ続けてはや何年経ったでしょうか。広報をつくる手間ひまを知っていた私ですから「やだよ、編集作業で夜遅くまで帰れないもん」と、その時々には軽い冗談で言っていた私…。なんとまあ広報係の一員となる日が来るとはまさに寝耳に水。ただこれもご縁でありますし、なんとも読みにやすく楽しい内容で、県下ナンバーワンの広報誌であると名高く、ご好評をいただいている我が香南市の広報作成に携わることができるといふ幸せが、それならいままでも以上にご家族の皆さんで楽しく読んでいただける誌面づくりをしなくちゃ！という野望にも似た責任感を胸に、皆さんのところへカメラ片手に走つてまいりますので、なにとぞよろしくお願いいたします！

(山崎隆広)



《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

ぼくには夢が三つあります

日本ジュニア管打楽器コンクール
ソロの中学生サクソホン部門で、
みごと「金賞」受賞。



野市町 楠瀬 亮くん
(追手前高校1年)

